



2025年4月4日

各 位

会 社 名 株式会社日本色材工業研究所
代 表 者 名 代表取締役社長 奥村 華代
(コード:4920 スタンダード市場)
問 合 せ 先 常務取締役企画・経理部長 霜田 正樹
(TEL. 03-3456-0561)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2024年10月11日に公表しました2025年2月期（2024年3月1日～2025年2月28日）の通期の業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2025年2月期通期連結業績予想数値の修正（2024年3月1日～2025年2月28日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	17,821	593	462	230	109.97
今回修正予想（B）	17,632	489	367	216	103.21
増減額（B－A）	△189	△104	△95	△14	
増減率（%）	△1.1	△17.6	△20.6	△6.2	
（ご参考）前期実績 （2024年2月期）	15,050	441	407	398	189.96

2. 2025年2月期通期個別業績予想数値の修正（2024年3月1日～2025年2月28日）

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	12,579	522	356	170.01
今回修正予想（B）	12,442	422	190	91.10
増減額（B－A）	△136	△99	△165	
増減率（%）	△1.1	△19.1	△46.4	
（ご参考）前期実績 （2024年2月期）	10,261	261	△89	△42.71

3. 通期業績予想の修正の理由

2025年2月期の連結会計年度におきまして、化粧品業界では新型コロナウイルス（COVID-19）の影響がほぼ解消、特に国内では前連結会計年度にマスク着用規制が撤廃されたことから口紅等の新製品販売に向けた受注が活況となりましたが、第3・第4四半期には受注の波も一旦大きく沈静化しております。また、欧米でも国内に先立って回復した需要は、その後回復ペースが鈍化しておりますが、中長期的には国内外共に化粧品需要は緩やかな回復・成長基調を継続するものと思われま

（個別業績）

当社グループにおきましても、国内・海外の化粧品メーカーからの受注は第1・第2四半期を中心に大きく回復した後、第3・第4四半期には沈静化し、一部資材の納入が遅延したこともあって個別業績における売上高は前回発表予想を下回るものの、前事業年度を上回る見込みです。

利益面でも、引き続きつくば工場第3期拡張等により諸費用が高止まる中で、原材料費や人件費、各種経費等もインフレで上昇、加えて連結子会社 Nippon Shikizai France S.A.S.（以下、「日本色材フランス社」という）支援に伴う費用負担等もありましたが、第1・第2四半期を中心に受注の回復で生産設備の稼働が向上したことで固定費を打ち返し、前回発表予想を下回るものの前事業年度を上回る見込みです。

（連結業績）

連結業績におきましては、上記個別業績に加え、フランス連結子会社では化粧品受注の回復ペース鈍化の影響もあってユーロ建て売上高は減収となり、連結売上高は前連結会計年度を上回るものの、前回発表予想を下回る見込みです。

利益面では、化粧品需要の回復ペースが足元鈍化する中、日本色材フランス社の業績回復が遅れ、THEPENIER PHARMA & COSMETICS S.A.S. の利益も導入した設備の稼働の遅れ等で予想を下回り、加えて前連結会計年度の為替差益が為替差損に転じたこと等もあり、営業利益は前連結会計年度を上回りますが、経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益では前連結会計年度を下回る見込みです。前回発表予想との比較でも化粧品受注の回復ペースの鈍化の影響等で予想を下回る見込みです。

（注）上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後発生する様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上